

# 第12回河川生態学術研究会 合同発表会

河川・海岸グループ 研究員 伊藤 将文

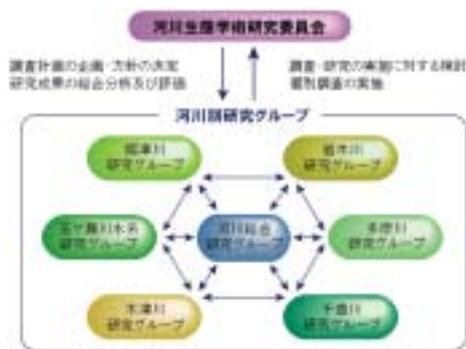
平成21年11月19日（木）に科学技術館サイエンスホール（東京都千代田区）において、第12回河川生態学術研究会合同発表会を開催した。

本発表会には日本全国より河川生態学術研究会の研究者をはじめ、100名以上が参加し、「口頭発表」、「ポスター発表」、「総合討論」の3部構成の本会において、活発な意見交換が行われた。

そもそも河川生態学術研究会とは生態学と河川工学の研究者が共同で、変動する環境下における河川生態系の機能と構造が河川環境に及ぼす影響を明らかにすることで、河川の本質の理解を深め、新しい河川管理を検討するための総合的な研究を目的とした活動を行う研究グループである。

その活動においては、全国に複数カ所の研究地区を設定し、同一地点において長期にわたる系統的、時系列的なモニタリングを実施している。

現在、河川生態学術研究会は、6つの河川研究グループに総合研究グループを加えた7つのグループで構成されており、本発表会はそれら7つの研究グループ間の成果報告および合同討議の場に位置づけられる。



河川生態学術研究会実施体制

## ○口頭発表

本発表会においては、7つの研究グループより概要報告・研究発表を合わせて14の発表が行われた。各発表題目は表を参照のこと。

## ○ポスター発表

ポスターセッションでは、標津川、岩木川、千曲川、五ヶ瀬川水系および多摩川の5つ研究グループより11の発表が行われた。中でも生態系に特化した「千曲川のオオシロカゲロウの単為生殖個体群の起源の研究」が、研究の独自性、生態学の専門性について高く評価された。

## ○総合討論

口頭発表、ポスター発表を踏まえた総合討論においては、河川流量が及ぼす砂州の形成・変遷に及ぼす効果等について、聴講者を含めた活発な意見交換が行われた。

### 口頭発表題目

標津川研究グループ 標津川研究グループ概要報告 中村太士(北海道大学教授)
岩木川研究グループ 岩木川河川生態学術調査研究グループの研究内容 2020 佐々木幹夫(八戸工業大学 教授) 十三湖における塩分と溶存酸素の挙動 福田信(東北大学 准教授) 岩木川流域への人間の居住史と沼水魚介類食文化(試論) 清野聡子(東京大学 助教)
千曲川研究グループ 概要報告 中村浩志(信州大学 教授) 信濃川全域から見た千曲川中流域の植生 島野光司(信州大学 准教授) 千曲川流域を対象とした個体群構造、ならびに遺伝的構造の比較研究 東城幸治(信州大学 助教)
五ヶ瀬川水系研究グループ 平成21年度五ヶ瀬川水系研究グループ概要報告 杉尾哲(高崎大学 名誉教授) 北川における砂州植生の被覆状況と繁茂状況の変動の把握 杉尾哲(高崎大学 名誉教授) 北川における野生動物行動と物理環境・植物群落の関係性評価に関する研究 榎田正利(独)土木研究所 研究員)
多摩川研究グループ 多摩川研究グループの研究計画の概要 星野義徳(東京農工大学 准教授)
木津川研究グループ 木津川河川生態学術研究-2つのフェイズの総括 谷田一三(大阪府立大学 教授) 木津川における砂州物理環境の変遷 瀧口敏子(名城大学 助教)
河川総合研究グループ 平成21年度 河川総合研究グループ 概要報告 鳥谷幸広(九州大学 教授)



総合討論

近年、国土保全の立場から、自然再生・都市再生、景観は川づくりの重要な課題となってきている。これらの課題に対する様々な科学的な示唆を与える研究として、河川生態学術研究会は、今後より一層、その役割の重要性を増すとともに、本発表会も各研究グループが一堂に会した討議の場として、河川環境の保全・再生に関わる貴重な情報交換の場となると考えられる。